

令和7年度厚生労働省行政事業レビュー外部有識者会合 議事概要

1. 日時

令和7年4月28日（月）10：30～11：10

2. 場所

厚生労働省専用第15会議室

3. 出席者

外部有識者：池田委員（※）、井出委員（※）、井野委員（※）、上山委員（※）、大谷委員（※）、大屋委員、加藤委員、坂井委員（※）、島田委員（※）、高久委員、寺田委員、中益委員（※）、橋爪委員

（※）オンライン参加

厚生労働省：大臣官房会計課長

政策立案・評価推進官

4. 議事内容

（議題）令和7年度公開プロセス対象事業の選定

厚生労働省から公開プロセス対象候補の18事業について、事業概要、選定理由及び想定される論点を説明。外部有識者の投票を踏まえて、意見交換が行われた結果、以下の6事業が今年度の公開プロセス対象事業として選定され、了承された。

<令和7年度の公開プロセス対象事業>

- 医療情報セキュリティ等対策経費【医政局】
- 地域健康危機管理対策事業【健康・生活衛生局】
- 労働時間等の設定改善の促進等を通じた仕事と生活の調和対策推進事業【労働基準局】
- 生涯現役支援窓口事業【職業安定局】
- 精神障害者保健福祉対策【障害保健福祉部】
- 介護テクノロジー開発等加速化事業【老健局】

5. 外部有識者の主なコメント

②高齢者医療制度円滑運営事業費補助金（医療費適正化対策推進関係事業・保険者協議会事業）

○本事業が必要であることは理解するが、指標が形式的であるため、現在の高齢者の状況を踏まえて改めて検討すべきではないか。

③認知症総合戦略推進事業

○日本における介護の給付水準はドイツよりも高い水準である一方で、相談機能が弱いと思われ、そういうギャップを2040年に向けて埋めることが期待できるため本事業を取り扱うことには大きな意義がある。

○どのような指標で、どのような成果が出ているのか、本事業が現在どういう状況なのかを整理し、検証する必要があるのではないか。

⑥介護テクノロジー開発等加速化事業

○本事業は研究開発に重きが置かれている事業なのか、それとも導入や既存技術の横展開に重きが置かれているのか。介護現場の声を研究開発事業者に届けることが目的なのであれば、それに適したKPIを設定すべき。

○民間企業においてある程度開発が自走しつつあるところに、ノウハウや介護現場のニーズ等を共有することにより、民間企業の開発目的を適正化することが本事業の目的といえるのではないか。

○本事業は国民目線でも関心の高い事業だと思われ、目新しい議論ができるのではないか。予算規模に対する取組も検証する必要がある。

⑦医療情報セキュリティ等対策経費

○セキュリティ対策は、インシデントが起こらないことが最も望ましいが、インシデントが起こるかどうかは極めて偶然的な事情に左右されるため、そういった点を踏まえながら、適切なアウトカム指標を検討する必要がある。

⑪中高年世代活躍応援プロジェクト

○氷河期への支援は変化を迎えてきている。待遇が低かった人たちは40代後半に入り、体力も落ちてきている時期になるため、社会において不利益をこうむりやすい。事業にてこ入れをするのであればこの数年間のうちに検討する必要がある。

⑫生涯現役支援窓口事業

○過去の公開プロセスで同様の事業を議論しているが、本事業を議論する際はこれまでの事業からどう変わっているのか、どういう所に力点を置いているのかを説明していただきたい。

⑮社会事業大学経営等委託費

○福祉に関わる職員の数は非常に少ない状況だが、今後、非常に重要になっていく分野であるため、そこに対して何かしら切り込んでいくことが重要であるし、行政事業レビューは、事業そのものを国民に知ってもらう機会でもあるので、現時点で行っている事業を知ってもらい、自分たちの未来が不安ではないと感じてもらいたい。

⑯精神障害者保健福祉対策

○地域で福祉相談を受けていた際、相談自体は多岐にわたるが、背景には精神的なトラブルを抱えている相談者が多かった。地域での支援がどうなっているか点検が必要と考えており、本事業を議論する中で得たヒント等をその他の地域支援にも活かすことができるのではないか。

○通常の保育・介護の支援と比べて精神障害を抱えた子どもや高齢者に対する国の手厚いサポートが少ないのではという意見を聞くことがある。